

令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

1. 活動のテーマ

自然

園名	板橋区立高島幼稚園
所在地	板橋区高島平2-18-1

<テーマの設定理由>

幼児の姿から、自然に触れて感動したり、自然の変化を感じ取ったりしている姿が見られ、身近な環境への関心が高い様子が見られる。幼児が自分から自然に関わり、様々に発見したり感動したりすると、試したり、工夫したりする探究心が湧いてくる。園内環境や教師の援助を工夫することで、子どもたちの豊かな心を育てていきたいと考えた。

2. 活動スケジュール

年間を通して、幼児が自分から様々なことを見つけて遊ぶ時間を保障する中で活動を行っていく。

3. 探究活動の実績

<対象年齢・活動の時期・内容>

- ・5歳児
- ・令和7年6月26日
- ・身近な虫（テントウムシ）に愛着をもち、友達と調べたり、世話をしたりする

<活動のために準備した素材や道具、環境の設定>

育てているナス、図鑑、虫かご、ティッシュ

<活動の様子>

夏野菜の水やりから戻ってくると、勢いよく先生に伝える姿がある。

A児：「テントウムシ捕まえた！」 B児：「面白い色だよ」

T(教師)：「どこにいたの？」

A児：「ナスの葉っぱ」と言って、保育室にある昆虫図鑑で調べるが載っていない。

A児：「先生、図書室で調べたい」と言って、図書室へ行く。

A児とB児は、いくつも図鑑を手にとって調べて、テントウムシの色や形から「オオニジウヤホシテントウ」ではないかと推測する。図鑑に、「えさはナスの葉」と書いてあったことから、育てていたナスの葉を取りにいき、ティッシュを水に濡らして、ナスの葉の先に巻いて水分を保てるようにして虫かごに入れる。

数日後、ナスの葉がテントウムシに食べられた跡を見て、「穴が開かないんだね！」と気付く姿があった。



4. 振り返り

以前、虫をつかまえて自分で図鑑を調べて名前が分かった経験から、珍しい色のテントウムシをつかまえたので、また調べたいと思う意欲につながっている。調べて分かることが楽しくなり、保育室に本がなかったことから、図書室に行って調べたいという気持ちになり、思考が持続している。自分が遊びの中で学んだ経験から得たことは大きな学びとなり、次の学びへつながる大切な経験となっていると感じる。また、自分から興味を持って、じっくり観察することで、テントウムシがナスの葉を食べる時には、穴が開かないことにも気付き、さらなる学びへとつながっている。